



佐世保市立歌浦小学校

所在地 佐世保市鹿町町下歌ヶ浦 7 9 1 番地 1 1

校 長 内野 義和

児童数 9 4 名 学級数 8 学級

学校教育目標…やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成

目指す子ども像…「つよく」・「かしこく」・「あたたかく」

今年度重点目標…「できた！」からつくり いかし かわっていく！



- 1 確かな学力を育てる教育の推進
- 2 豊かな心を育てる教育の推進
- 3 たくましい体をつくる教育の推進
- 4 信頼される学校づくりの推進

1 目 的

- (1) 学社融合，異校種交流，中学校区学校間交流の充実をめざした体験学習と交流学习を推進させることで，確かな学力と児童のコミュニケーション能力の育成をめざし，豊かな心を育むとともに，ふるさとへの愛情を深める。
- (2) 児童の学習状況を把握し，学び合う学級づくりと算数科、及び国語科の先行学習による授業改善を展開し，学力向上をめざす。また，サポートティーチャーによる授業支援（算数科の個別支援）を行うことにより，学習理解や活動に遅れの見られる児童に対応し，しっかりした基礎学力の定着を図る。さらに，毎週金曜日の始業前に実施するチャレンジタイムにおいても，チャレンジティーチャーによる学習支援を行い，学力向上をめざす。
- (3) 地域や保護者との連携により，ボランティア活動の充実と教育環境の充実をめざす。（登校時の見守り・あいさつ運動，本の読み語り活動）

2 主な実践内容

(1) 全校での主な実践

- ① 4年生～6年算数の授業へのサポートティーチャー（2名）による学習支援と1年生の学習全般へのサポートティーチャー（1名）による学習支援

また，基礎学力定着のために，毎週木曜日の「国語チャレンジタイム」と，毎週金曜日の「算数チャレンジタイム」を，始業前に15分間実施した。

このスキル学習の時間は，チャレンジティーチャーとともに，教頭，教務主任から事務職員や事務補助までの全職員で学習支援を行った。

- ② ボランティアによる登校時の見守り活動

朝の登校時には，ボランティアとして地域の方や校長、教務主任が通学路に立ち，安全見守りとあいさつ運動を行った。また，民生委員と担任及び全学年の児童による校門でのあいさつ運動も毎月実施した。

- ③ 読書活動の充実

毎週3回，朝の10分間読書に全校で取り組んだ。図書委員会の児童が定期的に図書室の本をコンテナに入れて，全学級に配本して，



子どもたちが色々な本を手にとることができるようにした。また、毎月1回、第1月曜日の朝は、図書ボランティアによる本の読み語りを行った。絵本や紙芝居を使った読み語りは、読書への興味関心を高める活動の1つとなっている。

④ かがやき広場

昨年度から町の文化ホールを借りて実施している「かがやき広場」は、午前が学習発表会で、午後は歌浦音楽祭を実施した。

特に、午後の音楽祭は、鹿町、北松、佐世保市の小中高大学で学ぶ児童、生徒、学生が一堂に会し、それぞれの音楽活動を発表し合うことによって、音楽のすばらしさや表現の豊かさ、心を揺さぶられる感動を味わい、情操を育むこと目的に実施した。今年は本校の卒業生でソプラノ歌手の前田奈緒様にも参加していただいたので、非常に好評であった。保護者、地域を合わせた参観者数は277名にもなり、地域活性化の一助を果たすことができた。



⑤ 保・幼・小・中連携

11月の芋掘りや2月の給食交流会には近隣の保育所や幼稚園児を招待して、共に学校給食を楽しんだ。また、幼稚園児のお店屋さんごっこでは、招待を受けた5年生が園に出向き、共に活動して交流を深めた。また、隣の鹿町小学校とは5年生が合同で宿泊体験学習を行い、2日間に渡る児童相互の交流を楽しんだ。

⑥ 地域との連携

5年生の米作り体験学習やカヌー体験教室、4年生の門松作り、3年生のスイートコーン栽培に水産教室、そして、全校で取り組んださつま芋栽培では、ゲストティーチャーの指導を受けながら取り組んだ。

また、8月は5・6年生のよさこい踊りを鹿町町の夏祭りで披露したり、12月の鹿町パールマラソンには4年生以上が全員参加したりして、地域と一体となった活動を展開した。

⑦ 朝のランニング

年間を通して始業前に全校で体力づくりに取り組んだ。前期から後期前半までは、ラジオ体操を行った後に5分間のランニングを、そして後期後半からは、長縄跳びを行った後に5分間のランニングを行った。職員もこの体力づくりに参加し、子どもたち一人一人に励ましの言葉をかけて体力づくりを推進した。本校の5分間ランニングは、自分のペースで止まらずに走り続けるという約束で、苦しくてもねばり強く頑張りぬく力を育てている。この朝の活動は、朝の目覚めを促して学習意欲の向上に役立っている。

⑧ 残食ゼロ、無言掃除の徹底

今年も給食を残さずに食べる「残食ゼロ」に取り組んだ。好き嫌いせず、しっかり食べる子どもは元気があり、嫌いなことから逃げない心の強さが育つ。また、「無言掃除」にも力を入れ、膝まづいて雑巾がけを行うことで丁寧に掃除をする心を育てている。

(2) 各学年の主な実践

① 1年生、2年生によるいのちの学習

地域の民生委員さんのご好意で、生まれたばかりの子ヤギとのふれあい体験を通して動物愛護の態度を養った。



② 3年生による野菜の栽培活動「スイートコーン栽培」〔4月～6月〕

地域の畑で、スイートコーンの苗植えから収穫までの一連の栽培活動を行った。収穫後は、日頃お世話になっているサポート先生や全校児童にもスイートコーンを1人6本ずつ配り、多くの人たちと収穫の喜びを分かち合うことができた。



③ 4年生による福祉体験学習「ふれあいの輪を広げよう」〔12月〕

校区内にある高齢者施設「つつじの郷」を訪問し、バリアフリーについて学んだり、福祉用具の体験活動を通して、体の不自由な人への理解を深めたり、働く人の思いにふれたりした。児童は、お年寄りと交流することで、接し方を学び、交流する楽しさを感じることができた。



④ 5年生による「稲を育てよう」〔5月～12月〕

校内の水田を利用し、田の草取りから、種もみ選び、種まき、苗作り、しろかき、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等の全ての作業をサポートティーチャーの指導のもとに取り組んだ。子どもは、夏休みも含め、水の管理や害虫の駆除を行った。また、1本苗・3本苗・5本苗・7本苗と分けて植えた株の分けつの様子を継続して観察した。そして、その様子を学習発表会で披露した。収穫後は、できた餅米で、サポートティーチャーや保護者と共にもちつきを行い、収穫の喜びを分かち合うことができた。



⑤ 6年生による探究学習「平和の大切さを伝えよう」〔7月～9月〕

長崎原爆資料館を中心に、平和案内人の方に原子爆弾の被害についての説明をしていただき、戦争の恐ろしさについて学ぶことができた。その後は、調べたことをまとめ、発表会を行った。戦争の悲惨さや平和の尊さについて考えを深めることができた。



(3) 校内研修の充実

- ① 今年は、国語科における「先行学習」に取り組み、授業実践を通して教師の授業力向上と児童の学力向上を図った。その際、授業インストラクター：鏑木良夫氏を招聘し〔9月、1月〕、隣の鹿町小、中学校にも参加を呼びかけた。したがって、先行学習による国語科の授業について大いに研究を深めることができた。

② 次のことを重点的に指導することで、学びの風土を築く学習基盤づくりを進めてきた。

- ・ 学び合う学級づくり
(ペア学習, グループ学習)
- ・ 学習規律の確立
- ・ 「学習の足跡コーナー」の充実
- ・ スキルタイムの充実
- ・ 国語辞典活用による語彙力強化
- ・ 家庭との連携
- ・ 学習に集中できる環境づくり
(OK筆箱やOK机の徹底)



3 成 果

(1) 学力向上

- 今年は、国語科における先行学習を取り入れた授業実践を積み重ね、授業改善を図った。鏑木良夫氏を2度にわたって招聘し、鹿町小学校と長崎市立大園小学校の先生にも参加していただき、研究を深めることができた。児童相互の学びあい(ペア学習やグループ学習)や児童自身が学習の伸びを実感できる2度の理解度評定による学習への成就感を高めた。
- 学習用具について全職員で共通理解を図り、一斉指導と家庭への啓発を行った。また、家庭学習の手引きも配付して、家庭学習の習慣化に力を入れた。保護者に、子どもの学習ノートに賞賛や励ましの言葉を書き込むことを求めた。さらに、よく工夫されたノートは廊下に掲示し、学習意欲の向上を図った。

(2) 地域とともにある学校づくりの推進

- 地域や鹿町小学校との連携、及び歌浦音楽祭は、教育活動の充実のみならず、子どもに鹿町町の一員であるというふるさと意識＝所属感を育てている。今年も歌浦音楽祭は、鹿町文化ホールを借用したので多くの参観者があり、大好評であった。
- 地域と一体となった登校時の見守り活動やあいさつ運動は本校の伝統であり、校長や教務主任も参加し、笑顔であいさつが交わせる安心安全な町づくりに大きく貢献した。

(3) 各学年の体験活動

- 地域の畑における3年生のスイートコーン栽培や全校児童によるイモの栽培は、半年をかけて雑草をとったり、水を与えたりして作物を育てることの苦労と収穫の喜びを学ぶことができた。
また、5年生の米作りにおける探求学習では、栽培の過程で起こる様々な問題を課題に設定していくことで、一人一人がさらなる解決に向けた学習に取り組むことができた。今年はイモの栽培では予想以上の収穫となり、招待した園児も大いに喜んだ。
- 4年生の門松作りや、5年生の米作りでは、外部の熟知した人をサポートティーチャーやゲストティーチャーとして招き、教えを受けた。地域の大人との関わりは、あいさつや感謝の気持ちを学ぶ場として社会性を育てる貴重な体験となった。児童の生きる力を育んでいくためにも、これからの体験活動を今後も継続していく。

